

正しくは、人口が「連続減少」の後に、「連続増加」している「関西の自治体」は明石市だけ、というものです。下記の表（自治体人口の前年比増減）の通り西宮市（20年連続）や伊丹市（10年連続）といった人口右肩上がり自治体も存在します。神戸市中央区、灘区、東灘区も非常に人口が増加していますが、神戸市トータルとしては減少しており、市の政策以外の要素も人口増減に与える影響が大きいことが分かります。

「明石市だけ」とうたいたいがために、「一般的ではない基準を用いるのは、格好の良いものではありません。」

①人口が増えているのは明石市だけ！という誤解

明石市は自然環境や地域資源に恵まれており、心豊かに、健康で、安心して、育ち、学び、働き、暮らすことのできる、田舎と都会の魅力を備えた”Aクラス都市”を目指すことができます。

そのためには、29万市民をお客様扱いせず、「一緒に明石市の将来を築き上げるパートナー」と位置付け、良い情報も悪い情報も正しく伝えることが重要になります。

ところが、最近の市広報は「大げさ、紛らわしい、誤解を招く」表現にあふれています。紛らわしい手法を駆使して、万事上手くいっているように見せるのは、市民への敬意に欠けます。

市民への敬意、正しい広報で

明石はA級都市へ

自治体人口の前年比増減

自治体	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年 (増減率)	27年 (増減率)	人口 28年11月1日 現在
明石市	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↗	0.17	0.17	293,940
西宮市	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	0.20	0.29	488,841
伊丹市	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	0.08	0.06	196,942
加古川市	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	-0.31	-0.39	266,466
神戸市 中央区	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	0.63	1.31	107,240
神戸市	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	-0.20	-0.14	1,536,241



波線で省略して、わずかな増加を大げさに見せる手法、市の広報としてふさわしくない。(広報あかし平成28年1月1日号)

正しくは「日本一の本のビル」と広報されています。しかし、市民からは「日本一の蔵書数の図書館になるって本当ですか？」、「二〇〇万冊も蔵書があるの？」と聞かれますが、どちらも違います。

明石市は「一〇〇万冊の本のビル」と言いますが、図書館は60万冊で、残りの40万冊は同じビルに入る民

③「日本一の図書館」の怪

どれだけ増えるとV字なのか基準はありませんが、写真の広報あかしのようグラフを波線で省略してズームアップし、「V字」に見せる手法も、ほどほどにしておかないと市民に失礼。「良いニュースなんだから」という意見もありますが、市民をパートナーとして考えるなら、きちんとした真実をお伝えするべきです。

②「人口V字回復」のV

V字回復の定義はなんだろう。おそらく、「急落の後の急上昇」でしょう。表の数値にあるように、明石市の人口伸び率は0.17%、増加人数は約五〇〇〇人です。西宮市は0.29%で約1,400人、中央区は1.31%で約1,700人の増加です。明石市はV字回復というのがはばかられる数字だと思います。

明石市は「一〇〇万冊の本のビル」と言いますが、図書館は60万冊で、残りの40万冊は同じビルに入る民

ところが、現在の取り組みはその逆を進んでいます。「保育所・幼稚園の無料化（2子以降）」や、「成果を大きく見せるための紛らわしい広報」、「商品券あげるから引越して来てキャンペーン」など、自らブランド価値を下げている場合ではありません。

市の顔であり、市民の情報源としてふさわしい「読める広報紙」作りが急務です。

Aクラスを目指せ！

人口29万人の明石市は、兵庫県下で5番目の人口規模であり、全国1,700余の市町村の中でも87番目の立派な自治体です。そんな明石市は、規模に見合った「格」を身に着け、さらに魅力ある「都市」を目指すべきです。

間的大型書店の蔵書。「それ入れちゃうの？」というのが私の感想です。「日本一の本のビル」というのも、分類のよく分からない言葉です。横浜市の中央図書館は蔵書数が約一六七万冊ですので、明石市は、よく分からない基準で日本一を主張しており、無理矢理日本一を名乗りたいように見えます。

